

佐藤先生

二人にちは。寒い毎日が続きますね。相変わらずお忙しい毎日を過ごされていることと思います。

一年前のちょうど今頃、娘が復学した時のことを思い出します。娘は毎日元気に学校へ行っています。二人は嬉しいことはいずれですね。

私は娘が小さい頃から、先回りをして娘の目の前の石ころを取り除いて進ませるような事をしてきていました。アドバイスと思い、色々と口数多く娘に指示していました。娘が失敗しないように、恥ずかしい思いをしないようにと、手を貸し続けて来ました。そうしているうちにいつの間にか娘は、「次はどうしたらいい？」、「どうすればいい？」と母に聞かなくてはおけない子になっていました。母への依存が強く、何事に対しても好奇心よりも不安の方が強い。親の過保護、過干渉に問題があることに気づかず、そんな娘のことを心配に思っていました。

娘が小学三年生の夏前に学校を休みがちなりました。毎朝登校を嫌がる娘を無理矢理連れて行くクとして、反発はひどくなる一方でした。そして欠席する日が増えていき、夏休みを迎えました。休み中は、学校の先生方との話し合い、心療内科の受診など

を重ねていました。が、ゆっくり様子をみましよう。急がず少しずつ...と言われ、そして夏休みは終わってしまいました。娘はやはり登校することの出来ませんでした。

「どうして自分だけ二人はこしててるんだろ？」
「どうして皆と一緒にのことが出来ないんだろ？」
と家で涙を流す娘を見て、何とかしないと強く思うようになりました。何か始めなければこのまま長いトンネルから抜け出せないという気がしました。

そんな時、主人が水野先生の書かれた本、「ころばぬ先の家庭教育」を買って来て、二人で読ませていただきました。読んでみても、大変なショックを受けました。今まで我が子の為と思ってやってきた数々のこと、全てが間違っていたんだと思ひ知らされました。そしてその事実を受け入れて正していくしかないんだと決意し、10月から支援を受け始めました。

電話カウンセリグや家庭ノートで我が家に合った家庭教育、娘の性格に合った言葉のかけ方などを教えていただき、それを実践していく事を心がけました。娘の意見を聞いて共感する。命令ではなくアイメッセージで伝える。親が指示するのではなく、娘自身に考えさせるような言葉をかける。今まで私が娘に対してできていなかった、このようなたたかをしていくうちに、娘も変わってきました。

そして、冬休み明けから復学することを娘は家族会議の中で決意し、みんなだ

頑張っていてという家族が団結しました。そこから訪問カウンセラーの先生方にも大いに助けていただきながら復学を果たすことが出来ました。娘が登校した後、佐藤先生に電話で報告させていただき、「おめでとうございます」と言われた時は本当に感激しました。

あの日以降、色々な出来事がありながらも、乗り越えながら娘は登校しています。そして、四年生の秋頃から色々なところで成長を感じられるようになりました。白の黒をはっきりさせたい気持ちと、性格が少し柔らかくなったり、自分で考えて行動する場面が増えたり……。今までは娘の出来ないところはばかりが目についていた私ですが、今は違います。

私達夫婦に、親が変わることの大切さを教えて下さった先生方にも心から感謝いたします。娘がクラスに戻れずに泣いてばかりだった頃から継続登校中の今まで、何度もくじけそうになった私を支えて下さいました。先生方からの数々のお言葉、チェックしていただいた家庭ノート、これら全部を大切に、そして忘れないうちに、これからも家庭教育を実践していきたいと思っております。本当にありがとうございます。